

【理念】

医療と福祉の連携をとり、介護員、相談員、ケアマネジャー、医師、看護師、栄養士、歯科衛生士それぞれの専門性、独自性、応用力を活かし、一貫したケアを行い入居者様が安全かつ安楽な生活を送ることが出来るように努める。

【目標】

- ① 異常の早期発見に努め、早期治療と看護による施設内での体調改善を図る
- ② 皮膚トラブルの予防に努める。発生時は適切な処置を実施し早期治癒を目指す
- ③ 感染症の予防と拡大防止
- ④ 看取り介護の質の向上
- ⑤ 接遇・礼儀の徹底に努める
- ⑥ 経費削減に努める

【実践報告】

- ① 異常の早期発見に努め、早期治療と看護による施設内での体調改善を図る
 - ・ロング入居者様は週1回のバイタルサイン測定（以下VS測定）と入浴時の検温を実施、SS利用者様は毎日VS測定している。退院後や食事、排泄、精神状態に変調があるときは適宜VS測定を行い、異常の早期発見、対応に取り組んだ
- ② 皮膚トラブルの予防と改善に努める
 - ・排便間隔、入浴回数等の関係から褥瘡の再発を繰り返している。また終末期において重度の褥瘡治癒を目指し、介護員と連携を取りに改善に努めた
- ③ 感染症の予防と拡大防止
 - ・インフルエンザ法人内感染事例無し
 - ・コロナウィルス法人内感染事例無し（入院中に院内感染で陽性となった入居者様1名は含まず）
職員家族1名にコロナ陽性反応があった。PCR検査の結果、職員は陰性であった
令和3年2月14、15日に特養、事務職員対象に簡易検査を実施した結果、全員陰性であった。
職員の徹底した感染予防行動と常に危機管理意識を持つことは今後も重要である
新型肺炎の発生、拡大により危機管理を各自徹底し施設内感染を防止したい
- ④ 看取り介護の質の向上
 - ・令和2年度は12名の退居があった。内ショート含む11名の看取り介護を行った
医療と介護の連携を図り、質の高い看取り介護が実現している。
- ⑤ 接遇・礼儀の徹底に努める
 - ・職員による接遇チェックを定期的に行っている。やや改善傾向と思われる。今後もお互い注意し合える職場環境を目指す
- ⑥ 経費削減に努める

- ・ 新型肺炎の拡大に伴い、マスクや消毒剤の経費が増大している。また入手も困難な状況となっており、長引く感染対応に向けて更なる節約に努めたい

令和2年度 病院受診者数と受診内容

	受診者数 (入院者数)	ロング入居者様の受診内容							ショートステイ利用者様の受診内容					救急搬送	
		発熱	心不全 心疾患	転倒 骨折	尿路感染 尿路関係	定期受診	その他	合計	発熱	転倒 骨折	尿路感染 尿路関係	定期受診	その他		合計
R02 4月	15 (0+1)	1	1	2		6	2	12	1			2		3	①
5月	12 (2+1)	1	1	1		5		7		2		3		5	
6月	21 (1+0)	1	2		1	6		10				6	5	11	
7月	21 (0+2)					11	1	12	3			4	2	9	①
8月	17 (3+0)			1	1	9	3	14				2	1	3	
9月	18 (0+1)					9	1	10				7	1	8	①
10月	17 (2+0)	1			1	7	1	10				4	3	7	
11月	16 (4+2)	2		1		4	4	11	1		1	1	2	5	1
12月	7 (1+0)	1				4	1	6					5	1	
R03 1月	6 (0+0)			1		3	1	5					1	1	
2月	11 (1+0)					6	2	8		1		1	1	3	1
3月	16 (3+0)			1		6	7	14					2	2	1
合計	177 (17+7)	7	4	7	3	76	23	119	5	3	1	30	23	58	6

○印はショートステイ利用者の救急搬送

令和2年度 受診動向のまとめ

特養ホーム 医務

令和2年度におけるショートステイ利用者様(以下SS利用者様)、ロング入居者様(以下入居者様)の受診動向の確認を行いました(別紙資料1をご参照ください)。受診者数、受診内容を確認することで傾向と対策を見出す手がかりとし、令和3年度における受診を減少できればと考えます

SS利用者様の受診総数は58件で昨年度より22件減少しました。SS利用者様の入院件数は3件でした。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け極力受診を控え、ご家族様による受診対応を依頼した結果と思われます。新型コロナウイルスの感染状況を確認しつつ、今後ご家族様や主治医、ケアマネ等各種関連機関との連携を図り、安全かつ最小限とする受診動向が図れるよう努めてゆきたいと思っております

ロング入居者様の受診総数は119件で定期受診が2/3を占めていました。受診医療機関が病院の場合は電話診療や再診期間の拡大を依頼し、受診を最小限にとどめた結果と思われます。次年度は新型コロナウイルスの感染等に関係なく受診者数が100名以下となるよう努めたいと思っております

腸閉塞で入院された利用者様が院内感染で新型コロナウイルス陽性となりましたが重症化することなく陰性化し、無事に退院することが出来ました。日頃より感染予防意識、対策の徹底が図れるよう、退院後は一定期間を隔離対応としました。また入退院に関係なく発熱者や施設間移動で入所された場合も同様に隔離対応を図り、感染対策に努めました

次年度はSS利用再開に向けて、さらに感染予防意識を高め、自己の健康管理や感染対策の徹底、環境調整等を行ってゆく必要があると考えます

令和2年度の退居者数

退居者総数		12名
(内訳)		
病院死亡者数		0名
ターミナルケア加算	死亡者数	11名
ターミナルケア加算外	死亡者数	0名
転院者数		1名